

尾道市自立支援型地域ケア会議 事例の傾向と課題

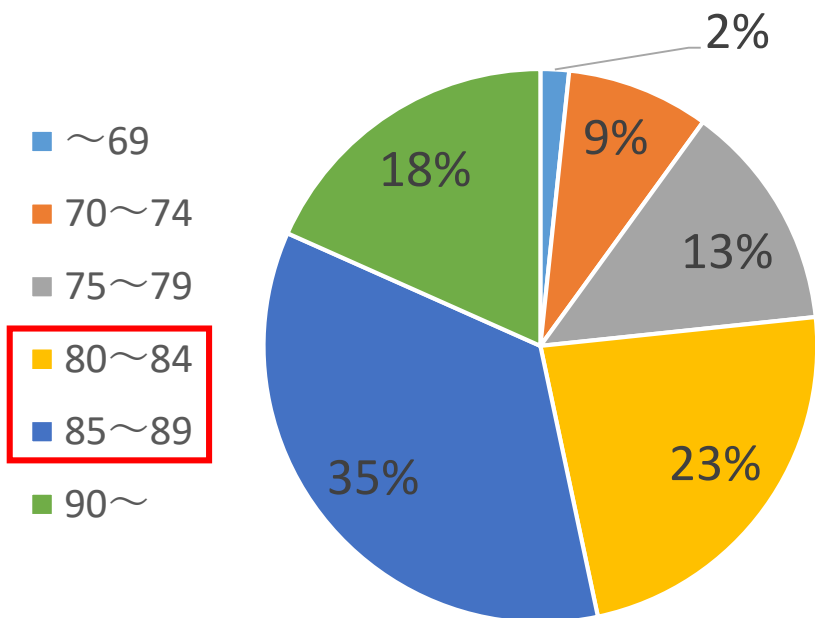
市直営 : 令和3~7年度
包括直営 : 令和6,7年度 } の事例について

※令和3年度から市全体で2ヵ月毎に開催。

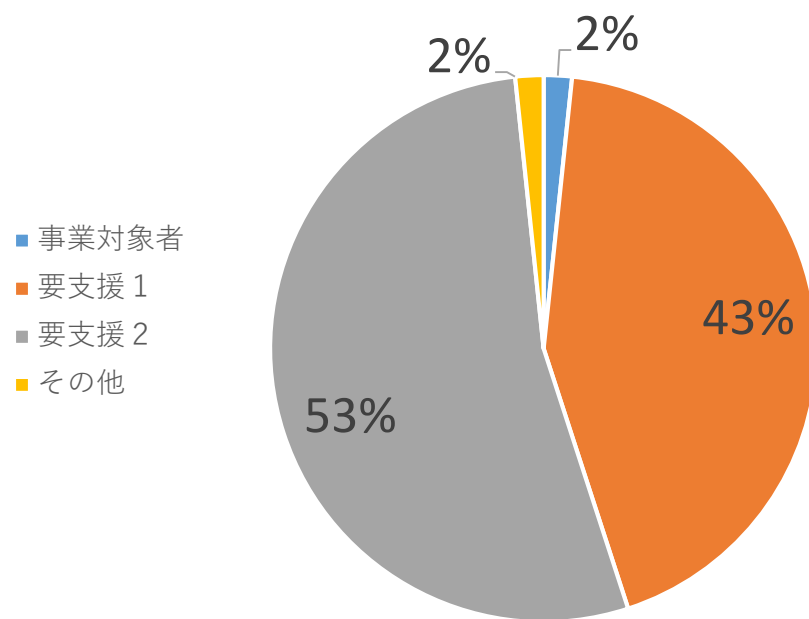
※令和6年度から圏域で実施可能なところは包括直営で実施（2圏域）、
市全体では3ヵ月毎に開催。

令和3～7年度 60事例の状況

年齢



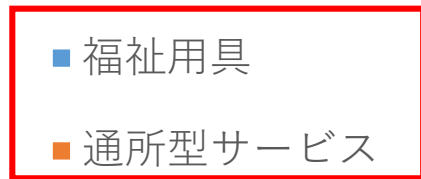
介護度



👉 年齢は、80歳代が約6割。
介護度は要支援2が半数を超える。

検討事例の利用サービス

フォーマルサービス（公的サービス）



訪問型サービス

住宅改修

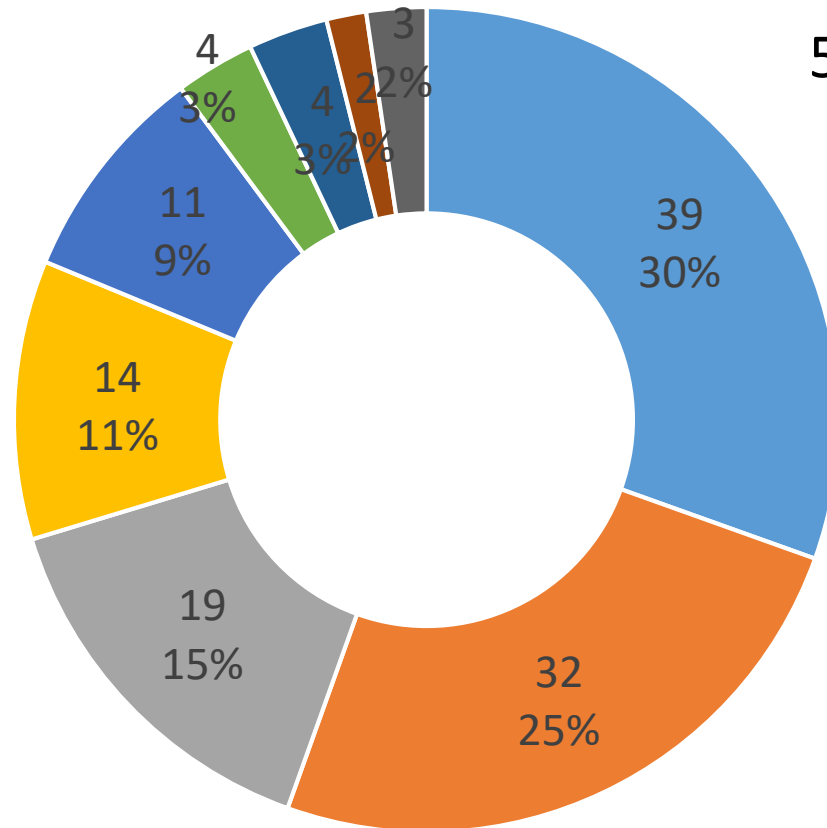
通所リハビリテーション

短期入所生活介護

訪問看護

訪問リハビリテーション

その他フォーマルサービス



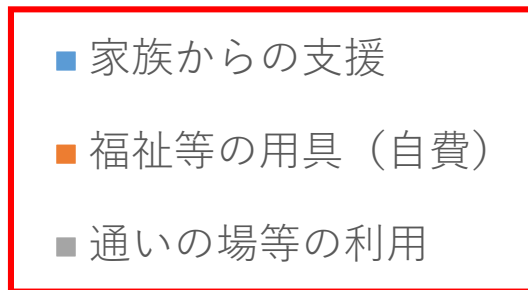
59事例

☞ フォーマルサービスでは福祉用具貸与、通所型サービスの利用が多い。

検討事例の利用サービス

インフォーマルサービス（地域の支えあい）

53事例



■ 民生委員の訪問など

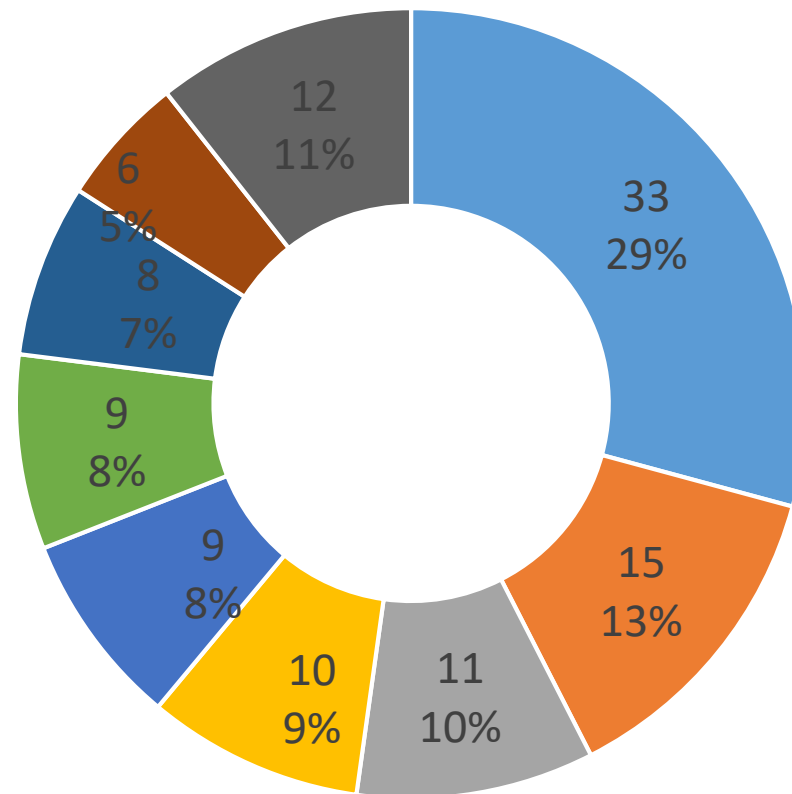
■ 友人・知人からの支援

■ 注文宅配など

■ 自費ヘルパー等

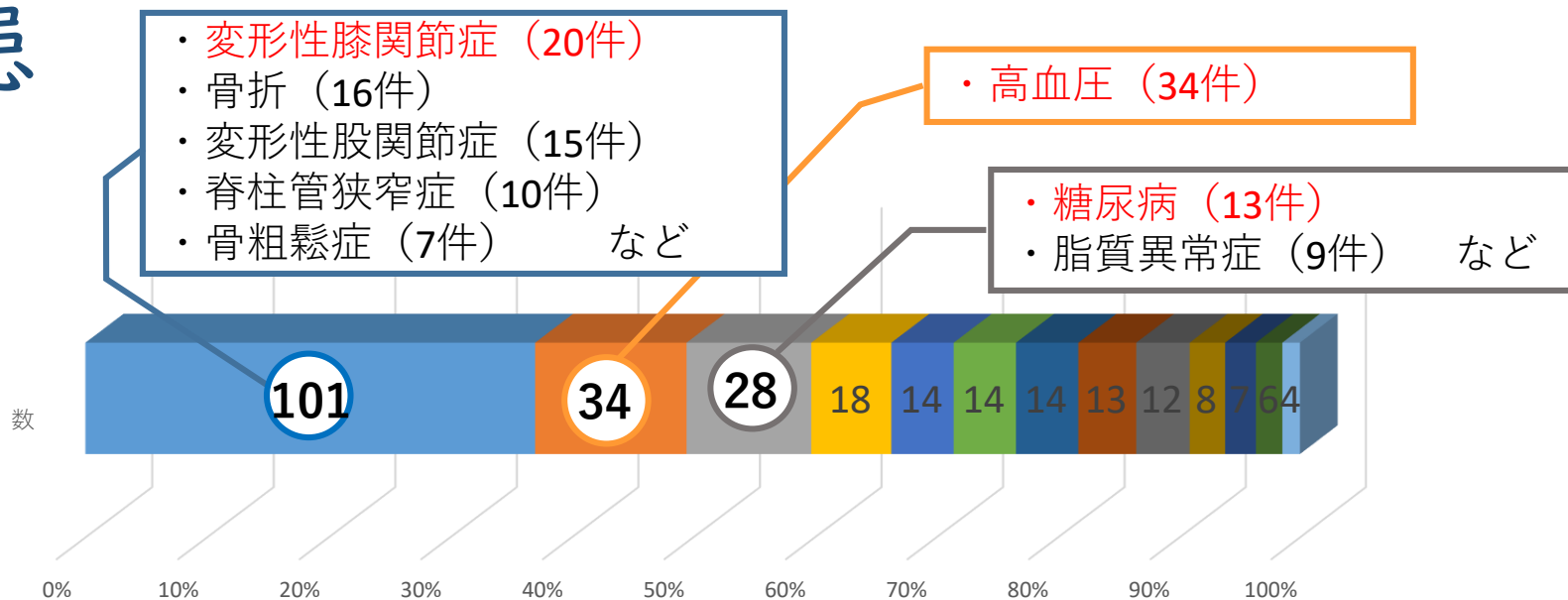
■ 配食サービス

■ その他インフォーマルサービス



☞ インフォーマルなサポートの内容は、「家族からの支援」「自費での福祉等の用具」「通いの場の利用」の順に多い。

疾患



■ 筋骨格系及び結合組織の疾患

■ 内分泌、栄養及び代謝疾患

■ 消化器系疾患

■ 心疾患

■ 精神及び行動障害

■ 新生物

■ 呼吸器系疾患

■ 循環器系疾患

■ 眼及び付属器の疾患

■ 腎尿路生殖器系疾患

■ 脳血管疾患

■ 神経系疾患

■ 耳及び乳様突起の疾患

☞ 筋骨格系の疾患を抱える事例が多い。
次いで生活習慣病関連疾患の事例が多い。

生活課題

■ 運動・移動

■ 日常生活

■ 社会参加

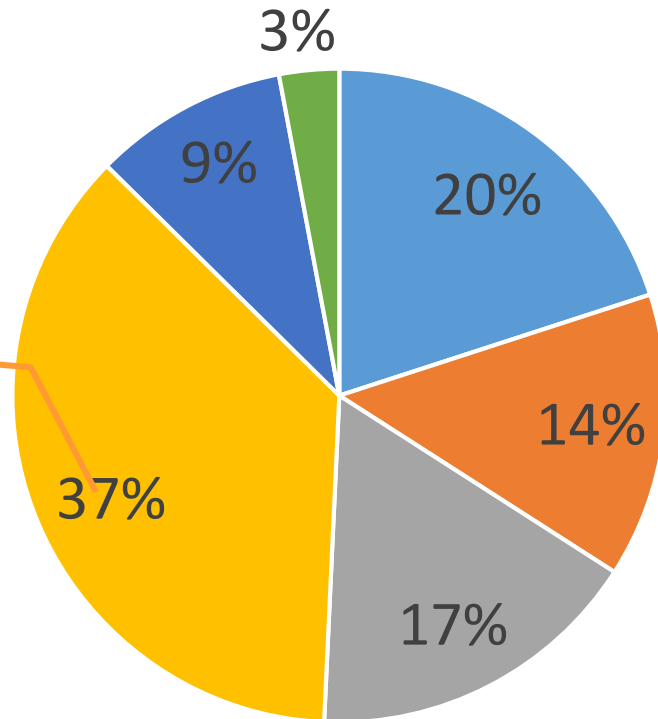
■ 健康管理

■ その他

■ 自由記載

- ・ 食事バランス不良 (23件)
- ・ 痛みのコントロール不良 (19件)
- ・ 意欲低下 (12件)
- ・ 慢性疾患コントロール不良 (9件)
- ・ 体重コントロール不良 (7件)
- ・ 口腔機能低下 (7件)

など



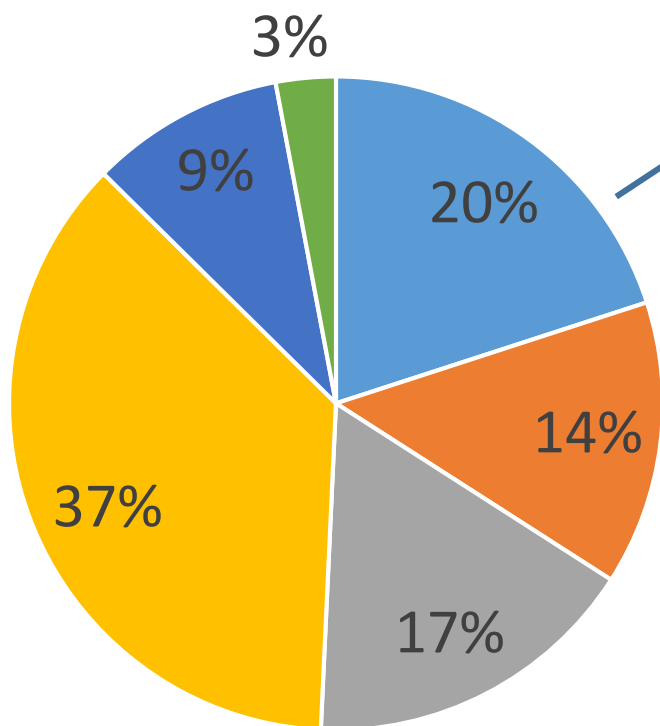
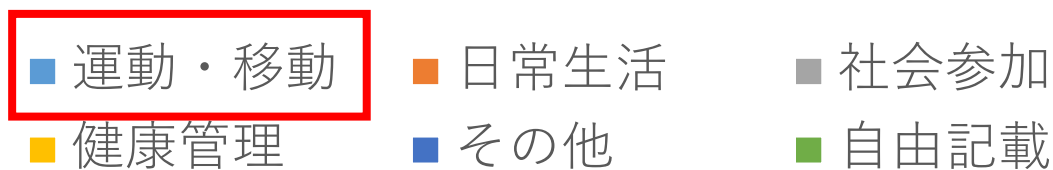
具体的なようす:

- ・ 家族が来るときは調理をするが、普段は単品の食事
- ・ 膝の痛みにより長時間の立位保持がしんどく、調理がおっくう

など

👉 分類では健康管理に関することが最多で、食事バランス不良・痛みのコントロール不良が多い。また、意欲低下のケースが増加傾向。

生活課題



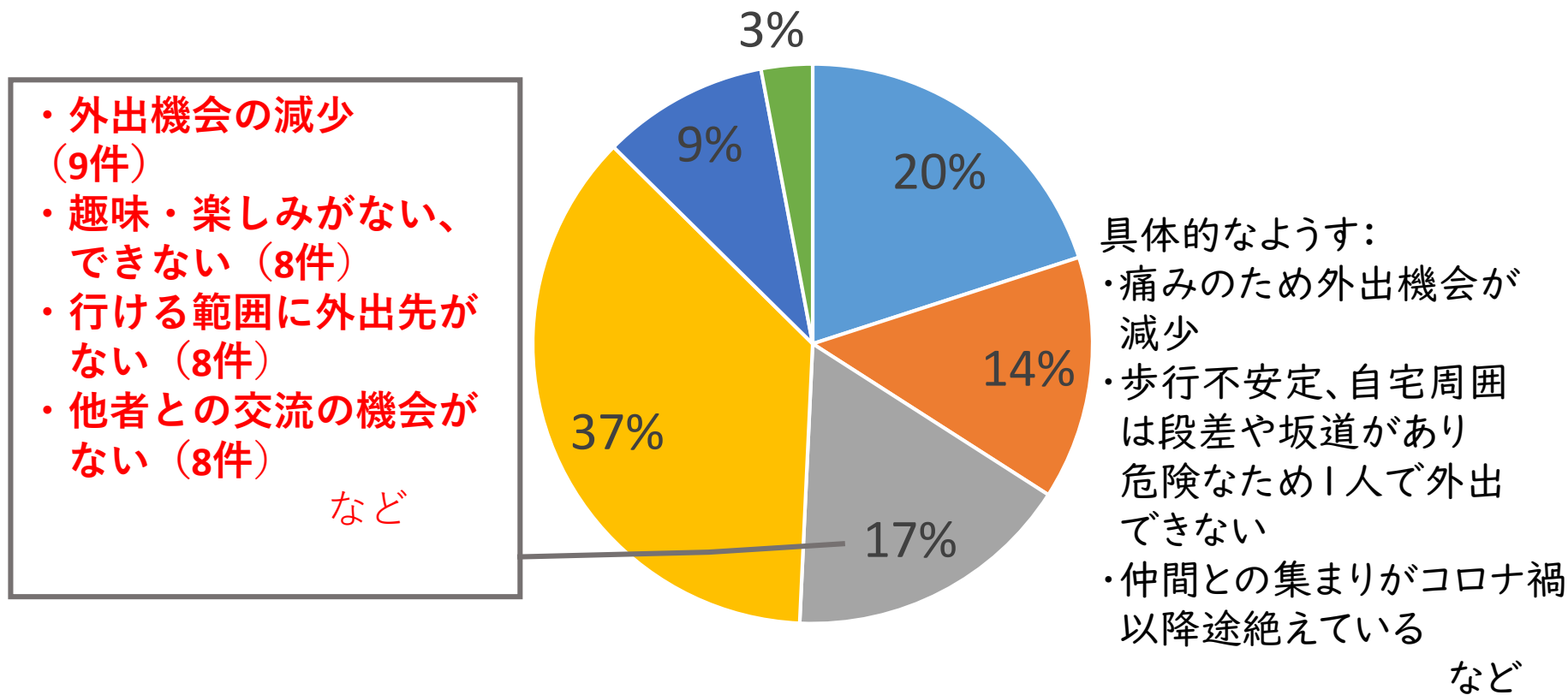
**歩行能力の低下
(47件)**

具体的なようす：
・膝の痛みのため
・疾患や加齢による
 下肢筋力低下・持久
 力低下のため
・体重過多のため
 など

👉 課題別に見ると、歩行能力の低下が最多。
結果、外出機会の減少や意欲低下につながっている
事例が多い。

生活課題

- 運動・移動
- 日常生活
- 社会参加
- 健康管理
- その他
- 自由記載

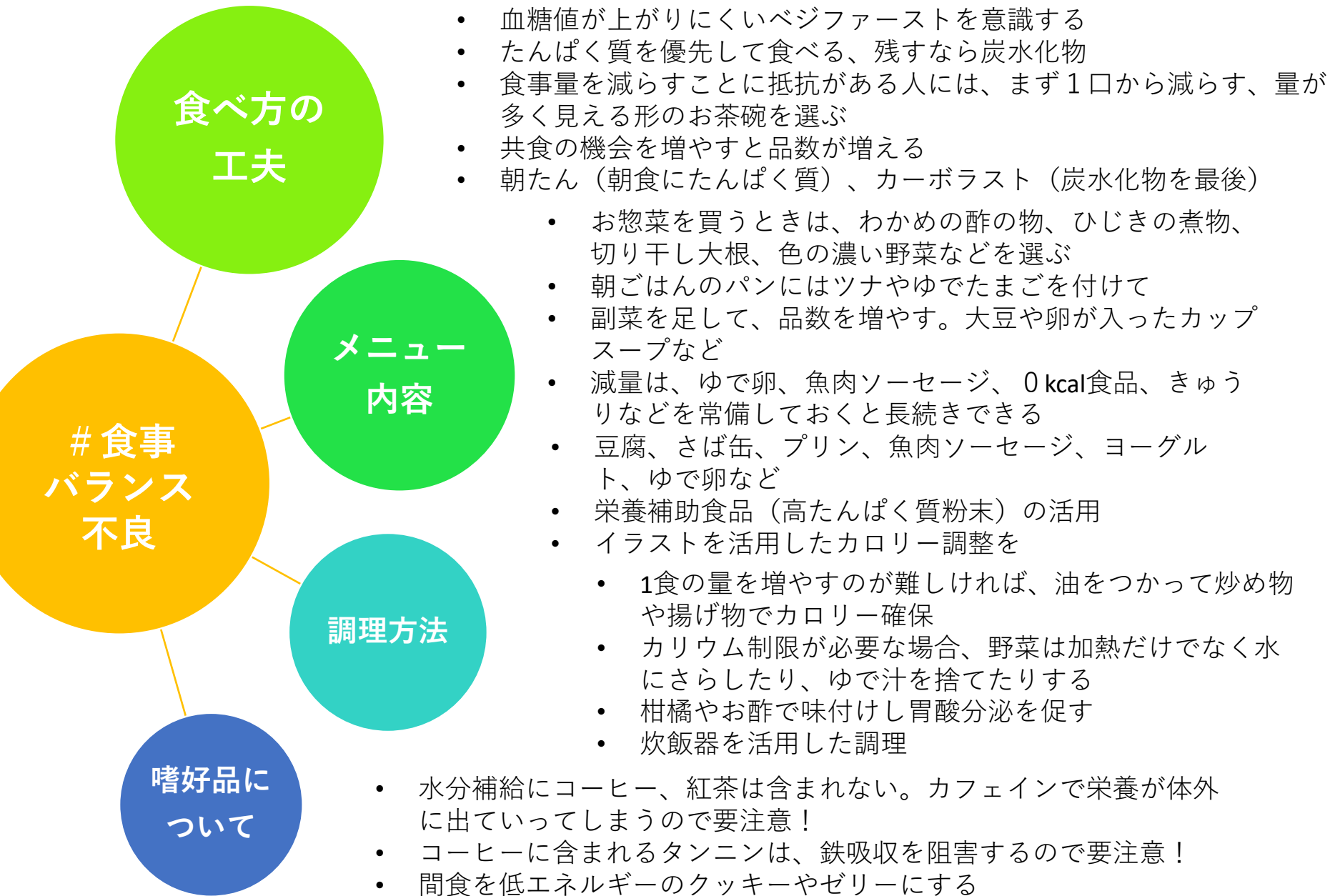


👉 社会参加に関する生活課題を持つケースが増加傾向。

「歩行能力の低下」への助言



「食事バランス不良」への助言



「痛みのコントロール不良」への助言

受診と服薬

- 整形外科を受診し痛み止めの処方
- 貼り薬も含め、いい薬があるので、痛み止めを服用することに対する本人の認識が変わるような働きかけを

リハビリ

- 自己流ではないリハビリを
- 膝が痛い方は、椅子に座って膝を曲げ伸ばしする大腿四頭筋を鍛える運動を
- 日常的に取り組める体操や運動習慣を

環境調整

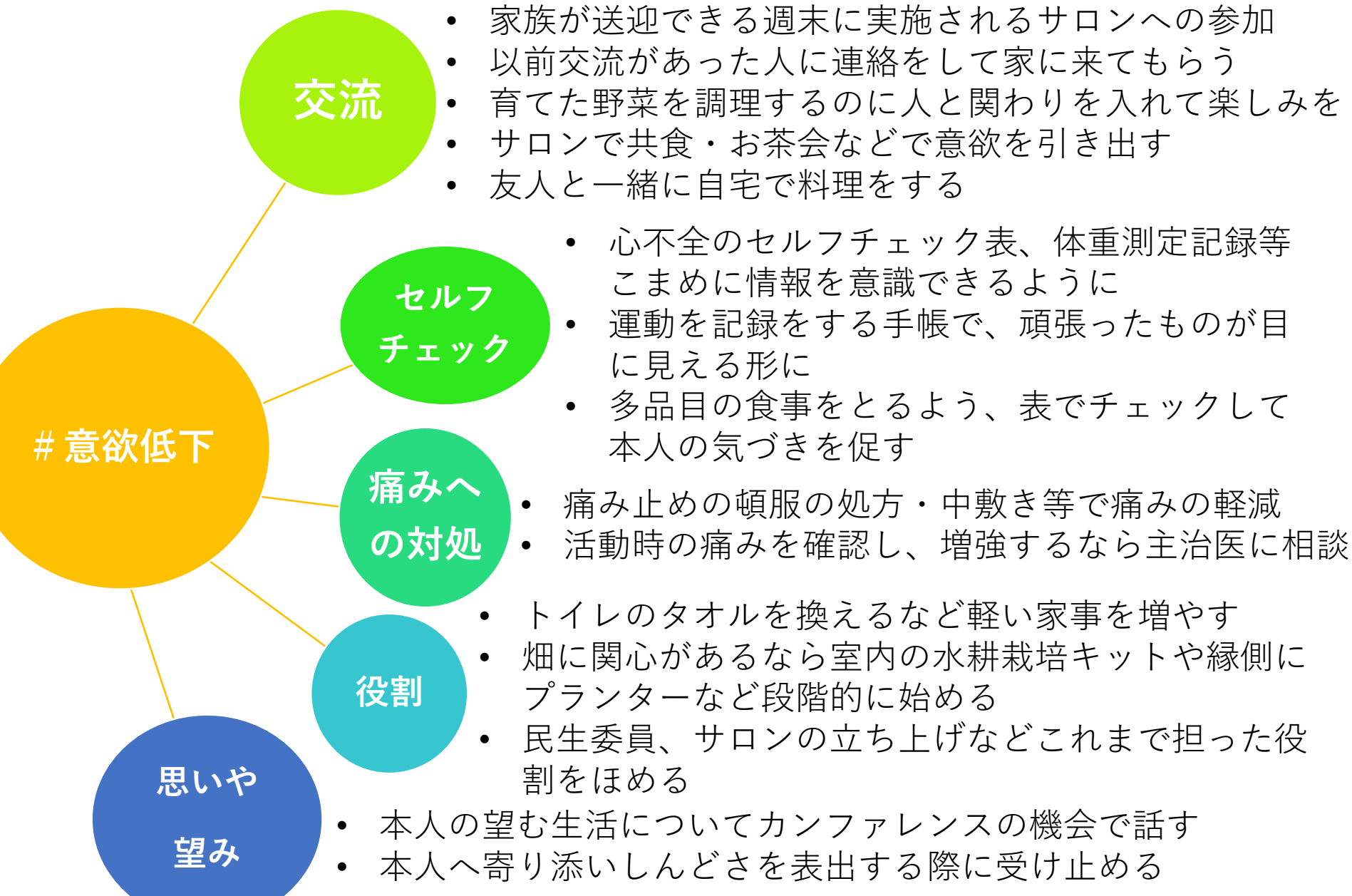
- 姿勢の乱れから膝の負担が大きくなることもあるので、歩行器や椅子などの高さの調整が必要
- 休みながら家事をする、立ち仕事の時もたれるなど動作を工夫する

その他

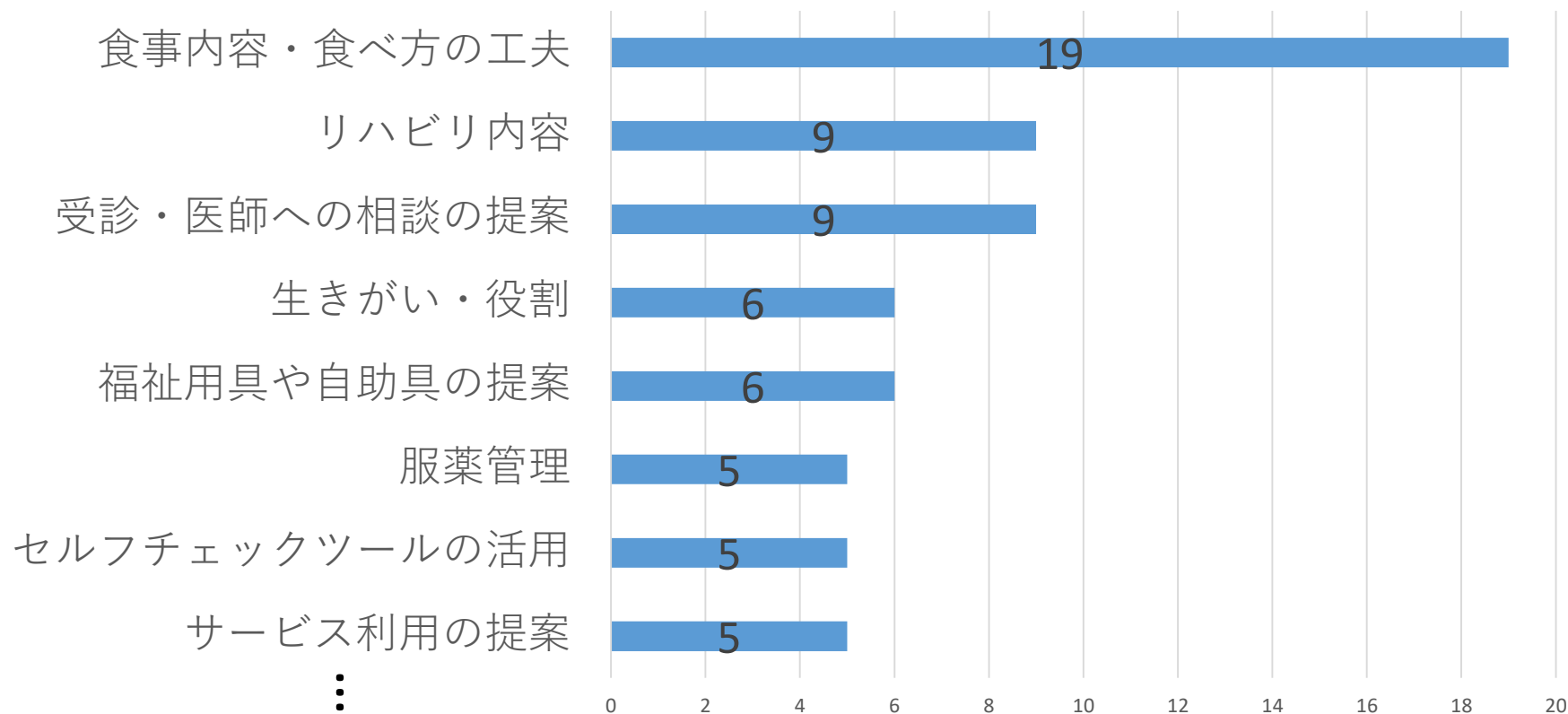
- 手術に前向きになれるような働きかけ
- 温熱、冷却などの対症療法
- サポーター、コルセットの活用
- 脚長差をインソールで調整
- 義歯の調整（合わないと余計な力が入り痛みが生じる）
- 減量

痛みのコントロール不良

「意欲低下」への助言



事例の行動変容に繋がった助言内容 (件数上位)



- 👉 食事内容・食べ方の工夫についての助言が多く行動変容に繋がっている。
- 生きがい・役割に関する助言が増加傾向。

地域課題

地域要因
(環境要因)

組織・支援者
要因

ネットワーク
要因

個人要因

60事例で挙げられた地域課題を上記の4つの要因ごとに類型化してみました。

参考) 政策形成につなげる地域ケア会議の効果的な活用の手引き
2023年3月一般財団法人長寿社会開発センター

地域課題

ネットワーク 要因

個人要因

- ・ 高齢者が生きがいや役割を持って活動・活躍できる地域づくり
 - ・ 疾患などがあっても、何らかの役割を持ち続けられる地域づくり
 - ・ 一人暮らしでも、物忘れがあっても安心して暮らせると高齢者が感じられる地域のネットワークづくり
 - ・ 近隣や地域との交流が少なく、家族の支援にも限りがある、1人暮らしの方への支援
 - ・ 複数疾患があっても、安心して社会参加できる支援体制づくり
 - ・ 地域から気持ちがいったん遠ざかった方が再度出ていける、受け入れができるような仕組みづくり
 - ・ 人付き合いがうまくできず他者との交流が少ない人が、生きがい・役割をもって活動できる地域づくり
 - ・ 地縁や地域とのつながりが薄いケースへの対応
-
- ・ LINE等、人とのつながりを感じられるツールを高齢者も活用できる地域づくり
 - ・ 独居高齢者の終活を支える体制づくり
 - ・ フレイル予防ができる支援体制づくり

生きがい・役割をもって活動できる地域

- ・ 一人暮らしでも...
- ・ 物忘れがあっても...
- ・ 疾患があっても...
- ・ 地縁がなくても...
- ・ つながりが一度きれてもまた...

- ・ 人との繋がりを感じるツール
- ・ 終活 ・ フレイル予防

地域課題

組織・支援者 要因

ネットワーク 要因

- ・ 意欲低下の原因にタイムリーに専門職が関われる支援体制づくり
- ・ 高齢者の生活課題（口腔、栄養、口腔機能低下、体重コントロール等）に対して専門職がタイムリーに介入できる支援体制づくり
- ・ 痛みなどの意欲低下の原因へ早期にアプローチができ、高齢者が前向きに生活できる地域づくり
- ・ 意欲低下している高齢者が保健行動をとるための行動変容に向けた支援体制の整備
- ・ 介護予防、重度化予防のため専門職（栄養士、リハ職等）がタイムリーに介入できる支援体制整備
- ・ 高齢者の糖尿病のコントロールのための専門職による支援体制の整備

- ・ ゴミ出しが難しくなってきた独居高齢者の地域での支援体制づくり
- ・ 精神的な支えを必要とする高齢者の支援体制づくり
- ・ 在宅の独居高齢者の支援としての見守りネットワークの構築

専門職の タイムリーな介入 ・ 支援体制づくり

- ・ 意欲低下
- ・ 痛み
- ・ 口腔 栄養
- ・ 生活習慣病コントロール

地域の互助 (専門職以外)

- ・ ゴミ出し
- ・ 精神的な支え
- ・ 見守りネットワーク

地域課題

組織・支援者
要因

個人要因

- ・ 1人暮らしの方の栄養や食事改善の取組
- ・ 男性の一人暮らしの方の栄養や食事改善の取組
- ・ 買い物機会が少ない独居高齢者の栄養・食事改善の取組
- ・ 独居高齢者が確実に服薬できるようにするための支援体制づくり
- ・ ポリファーマシーを予防できる支援体制づくり
- ・ 糖尿病の予防
- ・ 道が細い坂の上に住む高齢者が安全に屋外移動できるよう、自宅や地域でできる介護予防の取組みの推進

栄養・食事改善

独居

服薬管理

生活習慣病予防・
フレイル予防

地域課題

地域要因 (環境要因)

- ・ 傾斜地で、公共交通機関が遠い場合の移動手段の確保
 - ・ 生きがい活動・社会参加を継続するための移動手段の確保
 - ・ 車に乗れなくても交流ができる機会の確保
 - ・ 高齢者が自動車運転を返納したり車を手放した場合、買い物に困る地域がある
 - ・ 歩道や歩道橋整備されていない等、外出に不安を感じる地域がある
 - ・ 車が入れない坂道があり、外出に不安を感じる地域がある
-
- ・ 歩いて行ける範囲に、通いの場や買い物ができる場所、医療機関がない
 - ・ 本人の意欲向上に必要な社会資源の不足（手芸が趣味だが専門店がない）
 - ・ 運動や栄養について学べる場が徒歩圏内にあるとよい
 - ・ 民間運営で運動ができる場所がない
-
- ・ 地域全体が高齢化し近所で集う機会がない

移動手段

- ・ 公共交通機関が遠い
 - ・ 車に乗れなくなって...
-
- ・ 傾斜地
 - ・ 歩道等の整備
 - ・ 車が入れない

社会資源

- ・ 通いの場
- ・ 買い物
- ・ 医療機関
- ・ 近所との交流
- ・ 趣味活動、学べる場
- ・ 民間の運動の場

まとめ

生活課題について

食事バランス不良などの「健康管理」の課題や、歩行能力低下など「移動・運動」の課題を抱える事例が多い傾向が続いている。また、「社会参加」の課題を持つケースが増加傾向。

助言について

会議での助言を得て、ほぼすべてのケースで何かしらの行動変容につながっている。「食事」「リハビリ内容」「医師への相談」「生きがい・役割」に関する助言が行動変容につながることが多い。

地域課題について

各事例から予想される地域課題について、今後、関係者と共有・協議する機会を設けながら、取組の方向性や優先順位を検討していく必要がある。

(参考) 地域課題に対する取組

| 地域課題 | 取組み内容 |
|----------------------|--|
| 専門職のタイムリーな介入・支援体制づくり | <ul style="list-style-type: none">・ 圏域毎の医療介護ネットワーク会議や地域ケア会議の開催・ 通いの場へのリハビリ専門職派遣の拡充・ 自立支援型地域ケア会議を通じた専門職同士のネットワークづくり |
| 地域の互助 | <ul style="list-style-type: none">・ 生活支援体制整備事業等による地域のつながりづくり・ 認知症カフェ・チームオレンジを通じた見守りネットワークの充実・ 介護予防講演会・広報等にて通いの場の効果について啓発 |
| 通いの場等の社会資源の充実・活用 | <ul style="list-style-type: none">・ ふれあいサロン、シルバーリハビリ体操教室等の通いの場への支援・ 短期集中型通所サービス事業所・地域包括支援センターとの通いの場の連携についての協議・ 元気づくりマップ・オーラルフレイルチラシの活用等による関係機関との協働 |